

会 議 要 旨

会議名	第 6 回館山市景観計画策定委員会
開催日	平成 3 1 年 2 月 4 日（月）午前 1 0 時～午後 0 時 0 0 分
開催場所	館山市役所本館 2 階会議室
出席者	館山市景観計画策定委員会委員 9 名 事務局：建設環境部長、都市計画課 3 名、委託事業者 2 名
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	0 名
会議概要・結果等	<p>■議 事</p> <p>(2) パブリックコメント結果について (1) 館山市景観計画（案）について</p> <p>■会議概要</p> <p>○委員長挨拶</p> <p>足かけ 1 年半となり、事務局としても今回でまとめたいたいとのこと。 今朝は、東京から来る際に、高速道路を途中で降りて、海沿いの道を進んできたが、小さな入り江ごとに風景の固まりがあり、それらが全て海へとベクトルを向けている、そんな風景がこの地域の景観の基本的構造とするのならば、以前から話があった、高速道路が終わり、ヤシの並木を見て、「館山に着いた」という感覚になるのは少し違うのではないかと感じた。</p> <p>本日は、パブリックコメントの結果と対応についてが、第 1 の議題としてあり、次に、懸案事項として、景観まちづくりの目標を絞るということ、そこに時間を使いたいと思う。</p> <p>(1) パブリックコメント結果について</p> <p>○【資料 1】事務局説明に対する意見・質問</p> <p>（委員長）それでは、今の事務局説明について、何か意味意見等はあるか。</p> <p>・パブリックコメント意見の番号 1 と 2 は、同じ方の意見で、特別地区というのは「重点地区」、推奨地域が「重点地区候補地区」と解釈して答えられているということか。</p>

⇒（事務局）同じ方からの意見になる。「特別地区」「推奨地域」というのは、先方の記載の通りに入れている。名称を誤認されているかと思う。

⇒そうであれば、名称を誤っていることを回答しなくてよいのか。最初に、「事務局側ではそのように解釈したうえでご回答します」という一文を加筆する必要があるのではないか。

⇒（事務局）それについては、公表するにあたって、回答前段に「重点地区のことかと思えます」というような説明を入れる対応とする。

⇒意見内容について見ると、No.2のことをかなり重要だと考えているようであるが、館山駅西口地区のことが発端となって、今回、景観計画を策定することになったことを説明しないと理解してもらえないのではないか。

⇒（委員長）この方の意見は重点地区の中でも、半義務化するエリアと、希望者が推進するエリアに分けてはどうかという意見か。

⇒（事務局）この方のお住まいは、景観計画における重点地区から微妙に外れているとのこと。重点地区外でもその周辺に立地する建物が、南欧風の意匠に協力してくださっているケースもあるので、推奨地域のようなものを設けたらどうかのご意見であった。市としては、法規制を設けるのは、あくまでも重点地区だけで、区域外については、周辺の街並みへの配慮といった形での誘導を予定している。

⇒回答にあたっては、重点地区の設定について、事務局側としての定義をいま一度きちんと書くべきだと思う。

・（委員長）資料2 景観計画（案）の76ページ、赤字で記載している「自販機自主景観ガイドライン」を調べたが、このガイドラインの適用は「景観条例により自販機の色彩に対し周囲の景観との調和が求められている場合に限りです。」と書いてあるが、景観条例には、マンセル値などは書いていない。この点クリアできているのか。

⇒（事務局）ガイドラインをそのまま使うのではなく、「ガイドラインに準ずる」という表現にして、市がそのガイドラインを自主的に取り入れたという形にしているので、条例に位置付ける必要はないと考えている。

⇒（委員長）了解した。なお、このガイドラインの後に、出典である清涼飲料自販機協議会とカッコ書きで書いた方が良いかと思う。

・(委員長) 今回のパブリックコメントの件数(9名20件)は、他のパブリックコメントと比較して多い方なのか、少ない方なのか。

⇒(事務局) 他のパブリックコメントと比較すると、件数は多めである。ただし、今回は、意見の受付期間を長く設けたということもあるので、この兼ね合いもあるかと思う。

⇒(委員長) では、市民にとって少しわかりやすく、関心があるテーマだったのであろう。

それでは、パブリックコメントについては、質疑等は良いか。

－質疑なし－

(2) 館山市景観計画(案)について

○【資料2・資料3】事務局説明に対する意見・質問

・(委員長) 条例については、法的な文言のチェックはかけるということで、精神はこのままで、表現が変わる可能性はあるということ。館山市景観条例(案)に関して何か意見等はあるか。

－意見なし－

・(委員長) では、景観計画本編について、1点提案したいのが、「花のまちづくり」について、記述した、第10章を補章にしてはどうか。一般的な景観計画は、第9章の推進編くらいで終わるので、その方がすわりが良いと思っている。いかがか。

⇒(事務局) 最初は、方針編ということで、おそらく第6章の前に入っていたかと思う。その後、他の推進の内容と毛色が違うので切り分けたらどうか、との提案が過去の委員会であり、景観計画には掲載するが独立した内容として入れた経緯がある。

⇒逆に、それで目立つ部分もあるかと思う。

⇒(委員長) 溶け込ませるより目立って良いけれど、横並びにするの少し違うような気がする。

⇒この章は、主体の話かと思う。花に関する取組をきっかけに市民が参加できることに重点を置いているので、担い手の話である。

⇒花のまちづくりは住んでいる者にとっては、担い手もそうだが、景観についても重要な要素。特に館山で問題になっているのは、平砂浦海岸の植栽が、雑草が多いせいでなかなか進まないこと。本来は、千葉県の所管事務だが、館山市が肩代わりしている。平砂浦海岸周辺には、防砂林ということでクロマツ林が害虫によって枯れてしまい、それを市民の手で復活させようと動きがあり、自然景観を保とうとする動きが強くなっている。平砂浦海岸の花壇も本来は県や市で取り組みればよいかもしれないが、予算の関係上、難しく、市民にも協力してもらいたいという考えが市にもあるのではないか。

房総フラワーラインも、花が目につかなくなっている現状がある。私が子どもの頃は、洲崎灯台周辺一面がマーガレット畑だった記憶があり。名前だけでなく、花が植栽された本当のフラワーラインを維持・復活していただきたい。そういった意味で花のまちづくりを、章として取扱うことに関しては賛成である。

⇒（事務局）今まで花のまちづくりについて、市民の目に触れずに進めてきたため、景観計画を策定する機会に、ぜひとも花のまちづくりの推進をできるだけ市民の目につく形で位置づけたいという思いがある。市としては補章という形であっても、景観計画に章として入れてもらいたいと思っている。

⇒（岡部委員）本来は、館山駅西口地区と並ぶ重点地区と一緒に、花のまちづくりを重点地区エリアとして指定した方が構成として美しいかと思う。しかしながら、景観計画の性質上、この花のまちづくりの推進は、担い手の方に重心がある話なのでそうはならない。花のまちづくり編というのを、方針編・推進編と並べるには、あまりにも内容が具体的であるため、違和感がある。景観計画としてのすわりが悪い感じがする。

花のまちづくり編ではなく、実践編として最後に入れてはどうか。

⇒（委員長）実践編は良いかもしれない。それでは、実践編という扱いで、そのまま10章に置くことでよろしいか。

－異議なし－

・（委員長）景観まちづくりの目標については、最後に議論するが、その他の点で気になった部分はあるか。

個人的には、内容とは異なるが、計画書の編集のことについて、色使いや余白のとり方や、地図・写真の扱いをひと頑張りする必要があるかと思っている。

⇒パブリックコメントの中で提案があった、電車、高速バスで館山駅に入ってくるルート为重点地区にするか、今後検討するように回答しているが、今後、重点地区にする場合は、重点地区候補地区として挙げておく必要があるのではないか。

⇒（事務局）直接の回答にはならないが、現在進めている船形バイパスができた後に、高速バスルートの見直しもあるかもしれない。そうなった場合、重点地区候補になっている船形バイパス沿道や北条海岸周辺地区などがそういった位置付けになる可能性もあるとは考えている。ただ、現段階では、未確定な部分も多く、このご意見に対して、重点地区候補地区に位置づけることはできないので、検討という形をとっている。

⇒館山バイパスを抜けるとヤシの並木があって館山に来た、と感じる人もいるだろうし、本当にここが館山のか？と違和感を持つ人もいるだろう。現在のルートは、館山湾を見ないで館山駅に着くので、これに違和感を持っている。館山に来訪者を迎える景観が今後、重要になってくると思っている。この点も踏まえて重点地区の議論してもらいたい。

⇒重点地区に位置づけるのかということと、バスルートを検討する必要があるということの、2つの要素があるかと思う。館山市のまちづくりに係わってきた中で、館山バイパスで交通量調査を実施すると、インターを降りてから館山バイパスから白浜や鴨川の方に抜ける自動車が多く、北条海岸、西岬、平砂浦海岸の交通量が少ない結果が出た。館山道のインターを降りて、できれば船形に一度出してから北条海岸側から西岬に行くようなルートを館山の玄関としたい。そこから鏡ヶ浦に向かっていくようなルートにする。現在、高速バスが到着するのは館山駅東口で、そちら側に高速バスの車庫がある。渚の駅も中途半端で、本来はあそこから高速バスがでることが前提で、道の駅として整備されている施設。なんとか集客を獲得しなければならないということで館山市としても行政としても動いている所。こちら側が本来の館山の玄関になるべきだと思っている。館富トンネルを出て、ヤシの並木が突飛な風景というのが玄関になることは、望ましくない。

⇒（事務局）船形バイパスは現在、整備中だが、海岸線に人を呼び込むことが大きな目的なので、そういった状況を踏まえて今後、重点地区のありかたを考えていきたい。

⇒今の意見に賛成で、館山バイパスの整備が今のところ停滞気味なので、那古船形の新しい道路を海岸沿いへ延ばしてはどうか。イオンのところを左に曲がって鶴谷八幡宮の辺りに空き地ができたので、そこに停留所を作って、そこで榎の並木も見られるような雰囲気も味わえるし、館山駅東口に到着させることにこだわるのであれ

ば、館山駅東口までの動線というのが1案。もうひとつは、館山駅東口は置いておいて、そのまま館山駅西口の駅前に行き、今の南欧風の街並みも味わっていただく。

⇒（委員長）重点地区候補地区として船形バイパス沿道地区というものを挙げているので、熟度を高める中で選定につながればいいかと思う。今の段階では、この程度の重点地区候補ということでこれまでの議論で出てきたものをすくいあげるということでよいかと思う。

・（委員長）では、30ページの景観まちづくりの目標について、議論したいと思う。別紙に、目標案を3つ掲載してあるが、事務局説明によると、パブリックコメントでは案3を提示しているとのこと。案3は事務局の方で委員意見をまとめたもので、意見は、主に2人の委員から出されたとのことなので、目標案を紹介してもらいたい。

⇒（委員A）なるべく短いキャッチにしたかったが、オンリーワンが見つからない。館山には、いろいろな魅力があり、その中から絞り込めなくジレンマがあり、結局相場的になってしまった。委員長の意見で、八犬伝のコピーのように図案的に配置したらどうかというものが以前にあった。例えば丸い玉を八つ、文字をちりばめた中に愛あるまちづくり。というようなフレーズを。つまり、文字面だけ見てもつまらないので、私が今刺激的だなと思うのが、いすみ市のように「語りつくせぬ空がある」という文字と、宇宙、満点の星空の写真があるようなもの。このようにビジュアルと一緒に示さないとなかなかキャッチフレーズは生きない。なので、ビジュアルとセットで文字がある。

資料3の上から4つが私の提案したもので、

「あります館山 仁・義・礼・智・忠・信・考・悌 愛あるまちづくり」

「ないものがある ただそれだけの 館山」

「海・緑・花・食・祭 ないものがある館山」

「あります館山 海・緑・花・食・祭 愛あるまちづくり」

⇒（委員B）「“お金じゃ買えない”が生まれる街 館山」

これは、短く完結にインパクトがあるものと思考えたもの。館山に住んで6年目だが、だんだん地域に住んでいる方々のパワー・地元愛がすごく強いと感じている。結果として、以前あったリノベーションまちづくり講演会やまちづくりイベントなどを通じて、人の輪が生まれる、郷海・里山。自分の思いがいろいろある。来てみて、お金じゃ買えないが生まれるまちというのを、来た人に感じて貰えたら、という思いがある。

⇒（委員A）今のアイデアは、ひとの魅力も伝えたいというのが感じられる。それも入れられたら、最高だと思う。実は、いすみ市に

やられたなと思っていて、逆に「何もない」を売りにできるのだなと感じた。館山は海だと思う。海辺の生活というのは豊かな夢の暮らしということになるのかと。

海の写真などを見ながら思いついたキャッチフレーズが、「たったひとつの海がある」。

オンリーワンというキーワードがずっとなかったので、「オンリーワンの海がある」と。これはいろいろ魅力があるが、一番の魅力は暮らしも含めて、やっぱり海だと思う。そこで温かい人との輪が生まれ、あたたかい生活も生まれているイメージを包括するのであれば、海の中のイメージに触れるのが良いかと思う。こういったものも参考にさせていただいて、なんとなく作っていききたい。現在、ギリギリのスケジュールで申し訳ないのだが。

・(委員長) それでは他の委員も含めて何かご意見はあるか。

⇒私が気に入っているのが、島根県の「ないものはない」というポスター。もう一つが、西伊豆町の「伊豆の素敵は西にある」というキャッチフレーズ。西海岸なので海と夕日と島がある写真をあわせて。西伊豆を参考にし、

「房総の素敵 館山」

景観まちづくりなので、寺西委員が言われたような、沖ノ島の写真を載せて、そこに文字を縦で「房総の素敵 館山」。房総の素敵は館山にあるということを写真とキャッチをあわせて何枚も作っていく。素敵と思うものをビジュアルにして、そこにキャッチをつけていくというのが良いと思っている。

資料3の候補の中では「最南端の宝島 館山」が、個人的にはシンプルで良いと思う。

⇒(事務局)「景観」というワードを入れないといけないのではないかと考えていたが、委員の色々な意見を聞いて、個人的には今意見があったように、シンプルにまとめて写真などで補足して、中身は景観計画の冊子の中に十分あるので、キャッチととらえるのであれば、長くつけ足す必要はないと感じた。

⇒(委員長) では、事務局案は、撤回ということで。

⇒私も短く、インパクトがあるものが良いと思っている。今、「何もないがある」という意見がありましたが、私もいすみ鉄道の「ここには何もないがあります」

が好きです。ただ、強烈なキャッチが欲しいのと同時に、行政目標であるわけで、そうすると一定の具体性が必要なのではないか。資料3の案1は、一番バランスがとれていて良いのではないか。

海・緑・花・食・祭と5つも覚えるのは難しいが。これがある程度、行政目標らしく、海・緑・花・食・祭で概ね景観につながられると思う。長すぎず、「ないものがある」というインパクトもあるのでバランスがよいのかなと。

⇒確認だが、市のキャッチフレーズの「笑顔あふれる 自然豊かな あったかふるさと館山」というのは、こういった位置付けのものなのか。

⇒（事務局）それは、上位計画である総合計画の将来都市像である。

⇒（委員長）総合計画は、各種計画の一番上にある上位計画であって、それをかみ砕いて景観に特化した目標が一番望ましい。

⇒館山市のホームページでまず目に付く、「海と花のまち館山」というキーワードは、これはこういった位置付けか。

⇒（事務局）ホームページ上の観光視点の発信文句であって、何かの計画で定まっている目標等ではないかと思う。

⇒景観まちづくりの目標が決まったら、この目標はどこに掲載されて、どのように皆さんの目に留まるものなのか。

⇒（委員長）ひとまずは、景観計画の30ページの第3章と表紙であろう。それがもっとホームページやポスターなど、どうやって目に留めていただくか広報戦略を考える必要がある。広報のどこかを借りて、景観計画ができましたというだけでなく、そこに強い訴求力を与えていくなど。

⇒（事務局）概要版の作成も予定している。

⇒（委員長）概要版はどこかに配架するならば、その表紙を今回の目標がわかるようなデザインにしてもらいたい。

あるとかないとかは、海士（あま）町がやっているので2番煎じ感は拭えないかと思う。海士町は、「ないものはない」というフレーズで、二重に2つの意味がある。

⇒あるものはあるけど、ないものはない。というように開き直りの部分と、暮らしに必要なものは全部ある、という両方の意味があるので、より深い。

⇒景観計画では、花のまちづくりや港のまちづくりなど、いろんな「まちづくり」という言葉を使っているので、結局、どういうまちづくりにするのか。私は、「館山まるごと博物館」と呼んだこともある。館山は、房総半島の先端、太平洋に向かって、黒潮に向かって。歴史文化に重層性を持っている。曲亭馬琴の南総里見八犬伝で、房総の里見うんぬんとか、江戸の人々にとっての桃源郷と記述されていた。

北から南に向かう18世紀19世紀の新しい海に向かうというイメージを持った場所。同じ日本列島でも、特別な地域である。あまり

知られていないが、安房という言葉がついた自体がそういった意味合いを持つ場所だと思う。

⇒房総の海とか食は、メディアでよく見るのでPRしてくれていると思う。受取る側がキャッチコピーを見て、いろんなことを想像できるキャッチフレーズだと良いのではないか。資料3の案1「海・緑・花」のワードを組み込むのもよいが、館山に住んでいない人からすると、TVで見ておいしいものがある、海がある…というイメージは既にあるので、それ以外のこともワードとして入れるのが良いのではないか。

⇒冊子になったときに、どなたが使うかが大事ではないか。表紙の名前には重要な部分があると思っています。この冊子を誰が見るのかというときに、館山にリゾートホテルを建てる人、今後館山を利用したい、大規模太陽光発電所をつくりたいといった館山に興味を持ち、利用したいという人々が、館山ではどういう景観に関しての規制があるのか、何を重要視してこの景観について取り組んでいるのかなどを見たいのではないか。そういった目的で館山市景観計画を利用する方が多いのではないか。観光目的や館山の市民が見てどうということではないと思う。正直、関心度は薄いと思う。

であるならば、あまりキャッチーな言葉で表紙を飾るより、景観まちづくりを行う趣旨が伝わるようなキャッチコピーのほうがよいのではないかと思う。

⇒景観計画を作って館山駅西口地区を重点地区にするので、一番の目標の達成すべきところが重点地区にないといけない。そこを考えるべきではないか。全然知らない人から見たら不思議に思うのではないか。30ページの第3章の景観まちづくりの目標の下にある文章の最後を見ると、「花が咲き誇るまちなみ。海洋性リゾートタウン。明るく開放的なまちなみ。」館山駅西口地区のまちづくりでそもそも言われていたのが、海洋性リゾートタウン館山」ということであった。これは随分前に作られた言葉で、今はこれをどう言いたいのかが、目標に求められているのではないか。重点地区を館山駅西口地区のみにしようとした以上、そこの軸がないといけないのではないか。

⇒館山駅西口地区も作られて、花のまちづくりもそうだが、今までやってきたことを見直すという趣旨で景観計画の策定をスタートしてきたと思う。館山駅西口地区を重点地区にせざるを得ない状況で、市も館山駅西口地区に住んでいる方々に配慮する必要があると思っている。

別の委員の意見にもあったが、外から来る方に館山の景観がきちりしているの、むやみに開発行為できないということを言葉で示す必要がある。例えばホテルなどお金儲けを考える人達も入り込んでくるかもしれないので、そこは規制しなければならないだろう。

⇒今のご意見の中で、「規制」という言葉があったが、景観条例の政策的なイメージとしては、景観条例があると余計なものが建てられないことだと思う。あるいは、今ある古いものや自然を壊せないということで、開発業者にとっては面倒くさい、変なことができない、といった法律的な規制条例だと思う。そうであるならば、守っていくべきものが目標に書かれているべきである。守るべきものは、「海・里山」が第一。海が入っていれば、館山駅西口地区を守ることになり、カバーされているのではないか。

・(委員長) 海、島、太平洋、海洋と、異口同音に言っており、「海」が大事ということである。度々表現されている、「海洋性リゾートタウン」という言葉を、現在の館山の景観にあった言葉に言い換える必要があると思っている。海に対する暮らし、人々の営みが読みとれる言葉になっていけば、最低限クリアできるのではないか。

先ほど委員の意見にあった、太平洋にドンと突き出ている迫力というのは良いと思う。桃源郷という表現は、人の暮らしの営みの蓄積ということ。キーワードとして、太平洋に向かう、突き出るなどのダイナミックなもの、ひとつの暮らしの相対を表現できると良いのではないのでしょうか。あまり具体的にしすぎると、事務局案に近づいてしまうので、最小限にして。

委員の中では、やはり「太平洋だ」という感じはあるのか。

⇒太平洋というと、漠然としている気がする。

⇒太平洋だけでなく、東京湾もあるので。

⇒地図を逆さまにして、へソみたい突き出ているのが房総半島。

⇒(委員長)「たった一つの海がある」とあるといった意見が先程出たが、話を聞いていると、いくつもの海があるような気がする。入り江ごとに海があり、大きな東京湾と太平洋という海もある。いくつもの海が、暮らしと呼応しているような。

・議論を聞いていて思いついたコピーがある景観計画の 32 ページ、第 3 章 2.景観まちづくりの方針があるが、この方針が景観計画の位置づけであり、目的かと思う。景観と人の営みの両方を掲げているので、これを前面に出し、館山から発信することを考えると、「海と里山 守るものがここにある」になるのではないか。発信するのならば、こういうのも良いのではないかと思う。

⇒(委員長) 景観計画の 32 ページのポンチ絵のようなものを言いたいのかと思う。ポンチ絵は、風土という自然景観が基盤になっているものを、海あるいは海と里山という表現をして、その上で継承するものと創造するものを参加型でやっていくことを踏まえての

ことなのだろう。

・景観法が制定され、景観計画が策定されはじめた初期の頃は、「まちなみ」という言葉が必ずあったように認識している。「海と暮らすまちなみ」みたいなものがある。館山駅西口地区の景観も1つの街並みであり、櫛の生け垣のある街並みもある。気になるのは、海のない集落もあるので、そこはどうかと思っている。委員長がおっしゃったような、「いくつもの」という言葉を入れると、館山駅西口地区の景観もあるけど里山景観もあるみたいな意味合いになるのではないか。

「海と暮らす いくつものまちなみ」

スローガンではないので、館山はあえて入れなくても良い。

⇒花も海に関係があると思う。この地域には、花がきれいになるのに必要な紫外線が強い。この地域の植生も珍しいものがあり、漢方薬となるものも多くある。

⇒海と花は同列ではないと思う。海と暮らしがあって花があるのだから、海と暮らすということで、花も含むと理解すれば花は明記しなくても良いのではないか。

⇒「海と暮らす 創造のまち」はどうか。人の手が加わることによる創造。「まち」はひらがな表記で。

ちなみに海というのは、ただ「海」とするのか里をいれて「里海」とするのかどうかは考えないといけない。

⇒館山にはいくつもの海がある。海といえば、鏡ヶ浦というけれど、館山湾はそうだが、西岬には磯の海がある。平砂浦海岸に行くと長いビーチがある。大きく3種類あり、それぞれの生業がある。同じ海でもいくつもの顔がある。それが館山らしさだと思う。

⇒（委員長）「海と暮らす」、は良いと思う。

また、「創造」だけいれると、伝統・継承はどうするのか？という話になってしまう。

⇒例えば、「いくつもの暮らし」「館山暮らし」というキーワードをつけるのはどうか。館山暮らしの中には、なんとなく海辺以外の里山の暮らしも感じることができ、都会の人が持つ館山のよい印象を含めることができる。いくつもの海、いくつもの暮らし。いくつもの海、いくつもの館山暮らし。というような感じはどうか。

⇒（委員長）実は、最後に「館山」と付けるのは、有りだと考えている。「館山」の中にまちなみもあれば、コミュニティもある。ハードもソフトも一言で「館山」で語れるのは良い。

「いくつもの海で暮らす館山」は、どうか。シンプルすぎるか。

⇒「海と暮らす館山」だけで良いのではないか

⇒「海と暮らす館山」だけだと、離島でも同じだし、大島でも同じだろう、となるような気がする。

⇒どこの海というのではなく、暮らすとなると風土や人々など、そういったことにつながるもので、確かにどこでも同じという部分はあるのだが、あえて装飾しなくて良いと思う。

「暮らす」に人々や風土の意味合いが含まれているので、シンプルで良い。

⇒「いくつもの海と暮らす」で良いのではないか。

⇒「いくつもの海」の意味は、解説がつかないとどういう意味が含まれているのかわからないのではないか。館山でいくつもの海というイメージを持っている人は、いないと思う。

⇒海との暮らしがいくつもあるといったような方が良いかと思う。

⇒そう思う。それぞれの地区で違う暮らしがあるので、あまり海自体にこだわることはないのかなと思う。

⇒私は、田園が広がる地区に住んでいるから、いくつもの海があるとはあまり感じない。

館山は、海があり、田畑と暮らす人がいて、あるいは北条みたいに街中で暮らしている人がいるから、海が中心なのは当然なのだが、そこそこ暮らしのバリエーションがあるので、難しい。

⇒色々考えると、冒頭に私が述べたの、「海と暮らす いくつものまちなみ」だと良いかなと思っている。景観計画だから「まちなみ」という言葉を入れた方が良いかなと。

⇒（委員長）「館山」という言葉はいらないかなと思う。景観だから「まちなみ」という言葉が良いかもしれない。

⇒「まちなみ」に全部入ってくると思う。

⇒「あたたかい」や「温暖」という要素は入れなくてよいのか。

⇒最後に、「館山」と入れた方がやはり良いかなと思う。「館山」というとあたたかいというイメージがあるので。

⇒広報誌の名前が「だん暖 館山」となっていて、あのタイトルは良いと思う。あたたかいというイメージが出ている。

⇒館山というだけであたたかいイメージはある。

⇒漢字で「館山」と標記すれば、暖かいイメージが伝わるかもしれませんが、会話だと、大体、寒い方の「立山」をイメージする人が多いと思う。7,8割がそう。

⇒確かに、関東周辺であれば、「館山」と認識してくれるが、西の方に行くと「立山」と間違えられる。

・(委員長) それでは、「海と暮らすいくつものまちなみ 館山」でいかがか。

「まちなみ」はひらがな標記。それにプラス「館山」を入れる。

－異議なし－

・(事務局) 目標の背景に掲載する写真だが、先ほど、航空写真や沖ノ島という意見もあったが、「まちなみ」となると、沖ノ島の写真を掲載するのは違うのかなと思う。こだわらなくても良いが、景観計画の冊子上は、写真を背景に目標を前面にした体裁で掲載しようと考えている。

⇒(委員長) 写真は事務局の方で良いように考えてもらいたい。それでは、以上を持って、議事を終え、今後の微修正については、委員長預りにさせてもらいたい。

この策定委員会は、1年半に渡って進めてきた。最初は不安な部分もあったが、委員の協力により、なんとかゴールにたどりついた。この景観計画により、今後の館山の魅力を伝えていければ素晴らしいと考えている。

－議事終了－

○事務局より今後のスケジュールについて説明

・(事務局) 景観法運用指針に従い、館山市都市計画審議会に景観計画案の内容を諮る。都市計画審議会は3月18日を予定している。その後、最終版の計画書を皆さんに提示する。